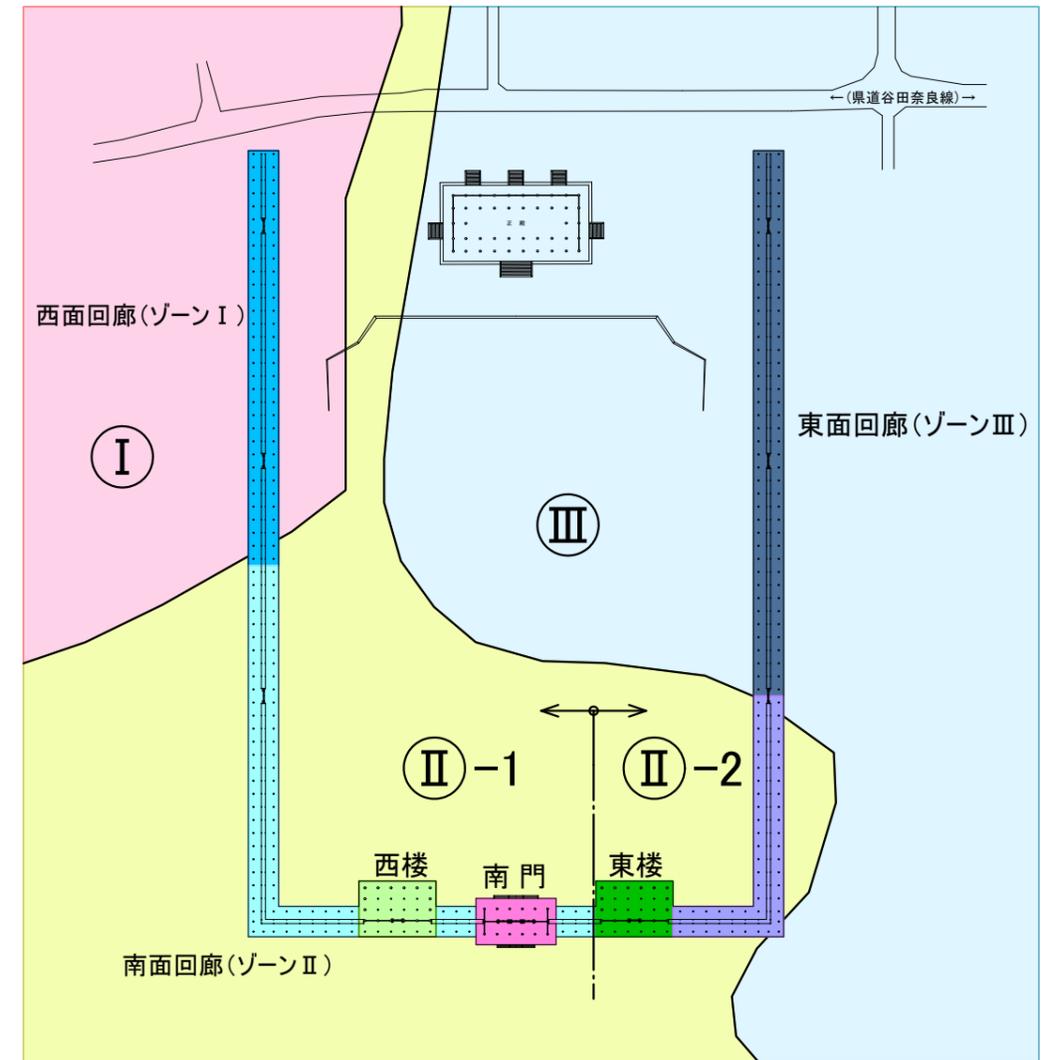


版築による復原整備範囲について

第2回文化庁復元検討委員会において、  
「築地回廊の版築を実施する範囲について、厳正な復原という観点から、提示された範囲よりもう少し範囲を増やすべきではないか。」

という指摘があったことから、その範囲を見直した。

ゾーン - 2 における回廊の基礎をマットスラブから二重スラブにすることで固定重量の軽減を図り、版築による復原整備範囲を、東面回廊南門から東楼東側まで延長した。



ゾーン	I	II-1			II-2		III
建造物名	西面回廊	南面回廊	西楼	南門	東楼	南面回廊	東面回廊
仕様							
地耐力 (kN/m <sup>2</sup> )	31.6	38.0	36.1	42.0	50.0	50.0	82.5
接地圧 (kN/m <sup>2</sup> )	28.2	28.1	27.3	32.9	27.3	36.3	45.8
余裕度	1.12	1.35	1.32	1.28	1.83	1.38	1.80
備考	現状造成天端での上限値 20.0 kN/m <sup>2</sup>	(参考値) 築地: 復原版築 - 余裕度 1.05					(参考値) 筋葺き - 余裕度 1.79